

相生山緑地オアシスの森くらぶ ニュースレター

35号

2009.5.23 発行

発行/相生山緑地オアシスの森くらぶ編集委員会 発行人/大館 学 編集長/近藤 真史

INDEX

【本号掲載分の活動】

- 1月24日(土)… コナラ大木伐採/定例活動
- 2月14日(土)… シイタケ菌打ち/特別活動
- 2月28日(土)… アカマツ林再生プロジェクト/定例活動
- 3月28日(土)… 第11回萌木祭り/定例活動
- 4月25日(土)… 2009年度総会/定例活動

1月定例活動

コナラ大木伐採



トンボ池は、匿名の方が水を補給して下さるので、年中水の涸れない良い環境になってきました。西側の梅園を剪定したところ、里山の雰囲気が出て

きたのですが、南側のコナラの大木が大きな陰を落とし、谷を暗くしていました。秋に多数のアサギマダラを呼び寄せるフジバカマの生育にも影響を与えそうです。コナラは元々定期的に伐採されていた木なので切り倒すことになりました。

当日は最高気温5.9度、時折時雨れる悪天候でしたが参加者13名、午前中女性グループはツツジの小径を整備、男性グループが大ノコギリを使って手引きでコナラにアタック。交替で刃を入れて昼食前に9割方切りました。昼食後、全員が見守る中で最後の刃を入れ始めると、空がにわかに掻き曇り、霞が猛烈に吹き付けてきて、最後のノコギリを入れると、吹き荒れる霞を切

り裂き、轟音を轟かせて地面を叩きつけました。あまりの迫力に全員が声も出ずに見つめていました。

倒れきったのを見届けて、全員が我先に木に取り付いて枝を切り落とし始めました。多勢の力はすごいもので、一時間もすると木は解体され、天気も回復して青空が広がり、眼前に明るい谷が広がっていました。「これこそ里山風景だね。」と誰ともなく言い、不思議な白昼夢を見たような気分になりました。

ちなみに、年輪を数えると樹齢は約40年で、コナラの生長のすごさに目を見張りました。

(伊藤 晶)

2月定例活動

アカマツ林再生プロジェクト



2月定例会は、かれこれ10年の歴史を持つ相生山緑地南西のアカマツ林再生です。今になって思い出すと当時は松の木に精気がなく、根本には落ち葉が腐葉土となって厚い層をなしており、

まさにアカマツ林は瀕死の様相でした。日頃の活動エリアとは離れた場所にあるため、1年ぶりの松との対面でしたが、生き残った松はそれぞれ生き生きした様子でした。また明るくなった地面には多くの実生の松も見られます。このような光景に出会うと、思わず笑みがこぼれます。森の手入れも子育てに通ずるものがあります。

毎年の手入れが行き届いていることもあり、作業は午前中で終わることができ、午後はトンボ池北側の竹の除伐作業を行いました。

松葉を焚き物にしていた時代と違い、あえて自然の遷移に逆らって松林を保全する意味をまじめに考えると難しいですが、私はいつの日か相生山で松茸が採れることを夢見ています。くらぶ

の仲間と秋に松茸を食することが出来る時が、アカマツ山における自然と人間との共生が実現する時ではないでしょうか。

それまで気長にこのプロジェクトに参加していきたいと思っています。

(村田)



▲明るくなった林床に育つ実生苗

3月定例活動

第11回萌木まつり ～竹柴垣づくり～



今年は桜の開花宣言も3月19日と例年より早く、相生山のヤマザクラも咲きそろった3月28日(土)、恒例の萌木まつりが開催されました。ここ数年萌木まつりのテーマは「食の楽しみ」に決めており、春の食材や会員手作り

のごちそうを萌木の下で楽しむ趣向です。

さて、食の報告は後にして、今回は私が大高緑地の竹林散策路で見つけた見事な竹の柴垣を相生山にも造ろうとの計画です。揃いましたのはNPO「オアシス造園土木」の作業員約10名、施工場所は山根口から小屋に向かう竹林の横「野辺の小径」です。

まず小池さんが買ってきた木杭を1.5m間隔でカケヤを使って打ち込み、トンボ池の横の竹林で除伐した竹を表側2本、裏側1本で結束し、その間に竹の枝の柴材を入れ込み、きれいに刈りそろえるというものです。

ここで力を発揮したのが元造園師の宮田さん、竹の結束から刈込まで手慣れたもので、その出来栄はまさにプロ、総延長約30mの竹垣が午前、午後とみんなの協力で出来上がり、施工前・施工後の工事写真を見ていただければその施工能力の高さがよく分かります。

竹垣班以外のメンバーは、ここ数回手を入れ続けている、トンボ池横の雑木林に竹が侵入した箇所を除伐を行いました。また、炊事班も朝からトン汁の準備と竹炭による調理の段取りと大忙しです。昼には、トン汁をはじめ、タケノコ、エリンギ、厚揚げなどの焼き物と五平もち、ヨモギ餅まで、デラックスな御馳走の大盤振る舞い。ビールも入って、楽しい一日でした。

(大館)



▲竹柴垣づくりなどで一汗かいた後の昼食タイムを満喫



▲施工前の野辺の小径



▲木杭を1.5m間隔で打ち込む



▲木杭を挟み込むように水平方向に竹を三段結束し、その間に葉のついた枝をギュッと押し込む



▲施工完了後、まるで嵯峨野みたい



▲枝の上部を刈り揃える



宮田 浩一さん

「広報なごや」で森くらぶの活動を知ったとのこと。もともと造園会社に勤めており、定年後、時間に余裕ができたことが参加のきっかけになったそうです。天白区土原在住。

新メンバー紹介(2)



早川 正則さん

ヒメボタル、アサギマダラなどの観察から相生山に興味を持っていたところ、くらぶのニュースレターをみて参加したいと思ったそうです。天白区植田在住。



青山 孝さん, 倫子さんご夫妻

趣味は孝さんが電気工作、家庭菜園、倫子さんが旅行、トールペイント、花など。天白区役所の「天白もりのフォーラム」の案内が参加のきっかけだそうです。

オアシスの森くらぶに参加して

青山 孝

もともと“自然”に興味を抱いていた私ですが、具体的な活動をする為の入口に接する機会も無く過ごしてまいりましたところ、この度オアシスの森くらぶを知り、参加してみました。活動内容は結構きつい面もありますがたまに息を付くイベントもあり、次第に楽しく参加できるようになってきました。殊にメンバーの方々は“自然”に関しての深い知識をお持ちで色々な事を分かり易く教えて頂けるので嬉しく思います。

トンボや蝶、草、木についてもトンボ、蝶で終わっていたものがクロスジギンヤンマとかアサギマダラとの本名?で区別しているところは感心しました。と言うのも、私も昔は蝶の採集に飛び回っていたことがありますから…。

里山の本来あるべき状態がどういうものであるか、またその状態をどうすれば維持できるのかがひとつひとつ理解できていく感じで、無理なく長続きできるように思いました。

椎茸の菌打ちに参加して

青山 倫子

2月14日、昨夜の雨模様から一変して朝から4月上旬並みのポカポカ陽気。

以前カットしたコナラを小屋に運び、皆で次々とドリルで穴をあけ、木槌で椎茸菌を埋め込んでいきました。途中、散歩する人達も珍しげにこの光景に足を止めていました。



初めての経験で、何もかもが新鮮であり、楽しく1日を過ごしました。椎茸が成熟するのが1年から2年かかると聞き、スーパーでの値段が高い理由に納得。

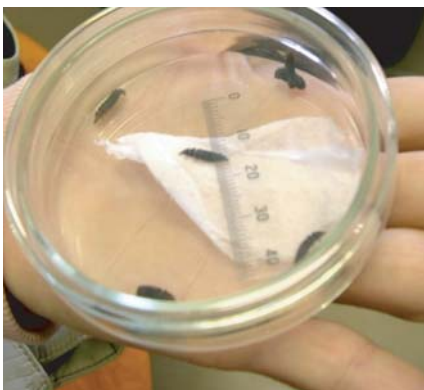
◇ ◇ ◇

一輪車でコナラを運ぶ途中、一羽のキチョウを見かけた。今日はバレンタインデー、相手をまだ見つけれなかったのかな?

シリーズ『森の住人たち』②②

～ヒメボタルの幼虫～ —はかなげな幼虫の発光—

ヒメボタル ホタル科
体長 13mm (終齢幼虫) 分布 青森県～九州
食餌 オカチョウジガイなどの陸貝



捕獲したヒメボタル幼虫

4月13日20時、9人が調査地に集う。目的はヒメボタル幼虫調査。かつて「ヒメボタルホイホイ」なる仕掛けを利用したが、今回は仕掛けなしで

行うことになった。各人が地表を探り両眼でしっかり観察して捕獲するというきわめて基本的な調査法を採用。夜間に実施する目的は、ヒメボタルは成虫のみならず、幼虫も発光する。その光を手がかりに、捕獲率を高めることにある。

幼虫捕獲に適した場所を探す。枯葉や小枝などを棒切れで除ける。湿った土の匂いが立ち上がってくる。闇の中で目を凝らす。

「光ってる！ ヒメボタルの幼虫かな～」

2m程後方からOさんの声が聞こえた。その声のもとに駆け寄る。小さ

な幼虫が光を放っていた。成虫の力強い発光と違い、いかにもはかなげである。リーダーのYさんが、間違いなくヒメボタルの幼虫だという。

「よ～し、がんばるぞ～」
メンバーは、再び作業を続ける。

「いたよ～」

「こっちにもいるよ～」

そんな声が、あちらこちらから聞こえはじめた。不安定な斜面で身体のバランスをとりながらの調査は、容易ではない。しかし新たな知見につながる予感に、私たちは黙々と作業を継続するのだった。

(文責 自然案内人 近藤 記巳子)

4月定例活動

2009年度総会



当日はあいにくの雨。それもかなり降っている。これまでなら「雨天でも警報がでない限りは活動!」と言いたところだが、集まったメンバーの誰からも威勢の良い言葉は出ない(やっぱり10年以上も活動をやっていると歳もくわな!)。そして、さっさと活動を取り止め、総会の会場探しを。幸い相生小学校の活動室が貸してもらえそうだったので、急遽、午後から予定していた総会をやることになった。集まった11名の会員で、まず議長の選任から始まり、2008年度の活動

報告と決算報告、会計監査報告そして2009年度の活動計画案、予算案を可決し、最後に今年度の役員選出。結果は全員留任という事になりました。
○会長/大館 学
○副会長兼運営委員長/真弓 浩二
○書記/近藤 真史
○会計/村田 英二
○会計監査/森 勝
○運営副委員長/永田 修二
○事務局/伊藤 百寿人、中島 巳治男
(小池)

Schedule

【定例活動予定】

集いの広場 10:00集合

6月27日(土) トンボ池周辺整備・竹林整備

7月25日(土) 森の調査
(集合場所・時間:相生口 9:30集合)8月22日(土) いろいろな巣箱づくり、クラフト
(会場・集合場所:相生小学校 研修室)

9月26日(土) 柴刈り大会・いのちの谷整備

10月24日(土) 第11回どんぐり祭り

●●●●● 会員募集中! ●●●●●

このクラブは、相生山緑地オアシスの森を活動の場として、昆虫、鳥類を含めた、多様性のある森づくり、環境づくりなどのフィールドワークを行い、会員同士のふれあいや、オアシスの森を通じて地域の人との交流などを行う、楽しい集いです。

具体的な活動内容は_____

- ◆オアシスの森を訪れる人々に、自然観察の方法や楽しみ方を知ってもらえるよう案内する。
- ◆公園管理者と協力しながら、オアシスの森での植生管理作業を行う。
- ◆植物、野鳥や地形、地質、気象などの調査を行う。
- ◆柴刈り大会や自然観察会などのイベントを適宜行う。
- ◆その他、目的を達成するために必要な事業を行う。

○会費は年間1,500円(保険料含む)です。主に連絡、郵送費です。
○振り込み先(郵便局) オアシスの森くらぶ 00860-7-33725

Information

【参加申込み・お問合せなど】

事務局
伊藤百寿人 052-895-8523
中島巳治男 052-803-9534

【Eメール】

Mail address :
aioiyama-moriclub@mail.goo.ne.jp
★参加申し込み・お問い合わせなどをメールでも受け付けています。
★会員の皆さんへ・・・活動に関する各種の情報を提供するため、メールアドレスをお持ちの方はお知らせ下さい。

【ホームページ】

URL address :
http://f44.aaa.livedoor.jp/~oasis/index.html
★ニュースレターのカラー版(PDFファイル)がダウンロードできます。
★定例活動・特別活動の報告や予告などを随時更新しています。

ホームページ管理・作成スタッフを募集しています!
お手伝いいただける方、興味のある方、是非ご一報を!!

【編集後記】

『トンボ池を作った目的や経緯について教えてください。』先日くらぶのメールにこんな問い合わせがありました。送り主は、山根小学校児童のお母さんです。学校の宿題で、興味のあるこ

とをインターネットで調べて発表する課題が出され、そのお子さんがトンボ池をテーマに選ばれたとのこと。早速、ホームページに掲載されたニュースレターの関連記事などについてお伝えするメールを返信しました。

私たちの活動が予期せぬところで役立つことに喜びを感じるとともに、オアシスの森の魅力を伝える“小さなメッセンジャー”が活躍する姿を勝手に想像しながら、思わず笑みがこぼれたのでした。(編)